

地域密着型サービス評価の自己評価票(東棟)

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今までに掲げ実践していた理念に、地域とのかかわりを盛り込み、新しい理念として意識し、仕事を行っている	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼を行う事務所に理念を明示し、カンファレンス等にて、理念に基づくケアを話し合い、実践している	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議や家族会にて説明している	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	時々、近所の方々が野菜を持ってきてくれたりしているが、日常的に行き来あるまでには至っていない	○ 散歩などで挨拶や言葉を交わし、気軽に来て頂けるような関係を作っていきたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会などの参加は行っていない	○ 町内会への加入を検討中である

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	家族・ボランティアなどの見学や研修の受け入れをしている。希望に応じて相談を受け付けたい		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の内容は全員で見直し、話し合いを行い、業務に取り入れるなどして改善を行っている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ一度しか運営推進会議は開催していないため、取り組んではない	○	八月の運営推進会議にて評価の説明を行い、結果が来たら、次回の運営推進会議にて内容を公表し、モニターしてもらいたいと考えている
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム連絡会(地域密着型サービス連絡会)に参加し、話を伺ったり、不明な点などは指示を仰いでいる		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修等で話を伺ってはいるが、利用には至っていない	○	生活保護利用者がいるので、相談し、利用を考えていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で話を伺い、職員にも伝えている。カンファレンスで話し合い、ケアについては常に見直しを行い発生の防止に努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に一度見学をしていただき、契約について説明をし、契約時にも再度確認していただいている。変更時には家族会や文書にて説明している	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情については管理者が窓口となり、常時受け付けている。また、意見箱や運営推進会議を通して受付、対応している	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や家族会等にて話している。また”長寿館だより”を発行して日々の暮らしの報告を行っている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情については管理者が窓口となり、常時受け付けている。また、意見箱や運営推進会議を通して受付、対応している	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話し合う機会を設け、場合によっては全員で話し合いを行い、反映させている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	場合によっては職員の勤務変更を行い、十分な対応ができるよう心がけている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者等が異動時には引継ぎを行い、新しい職員や利用者に対して負担の少ないよう努力しているが、どうしても情報の抜けが生じてしまっている	○ 情報は常にカルテ等に記録し、申し送りを徹底していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に行ったものが、内容を職員に伝える等して勉強している。希望があれば研修にいけるように勤務にも配慮を行っている。また事業所内でも勉強会があれば参加できるようにしている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、交流を図りながら相互に協力し、勉強会など行っている	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	互助会があり、納涼祭やボーリング大会、バス旅行があり、皆、楽しんで参加している	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個人の努力を把握し、本人の資格取得の希望など、できる限り配慮し、支援している	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時は特に注意し、コミュニケーションを行っており、その後も日々の声かけや表情観察は常に実施している	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前や面会時に利用者が利用者の状態を伝える際など、家族や家のことを聞き、相談や支援できる場所は行っている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を利用し、家族にも協力してもらいながら、アセスメントを行い、サービスの提供につなげている	○	センター方式の活用が十分にできていないところがある。場合によっては中々聞き取れていない点もあり、今後はできるかぎり活用し、ニーズの把握を行っていききたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族には一度見学に来てもらっているが、本人はまちまちである。隣接のデイを利用していただく方も多く入所しており、時々散歩に行き、知り合いに会うなどし、その後のフォローは行っている	○	家族と十分話し、利用者が不安に感じたり、混乱しないよう配慮していききたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事やお茶を一緒にとり、昔のことを教えていただいたり、ともに過ごす時間を大切にし、一緒に活動を行っている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	病院受診などできる限りの協力をいただいている。面会の少ない家族には連絡し、面会に来ていただくようお願いしている	○	家族によって差があり、利用者もつらく感じている場面がある。職員で気をつけフォローしていききたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の負担や本人の負担に気を配り、場合によっては間に入ったり、相談に応じるなどして支援を行っている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	元隣接のデイサービスを利用していた方は、デイに散歩に行き友人に会えるようにしたり、家の近くにドライブに行くなどしている	○	地域の催しに出かけるなどしたいが不十分のため、できる限り実行していききたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の席など配慮したり、職員が間に入って交流を持つなど、関係には十分気を配り対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用しての情報収集やアセスメントを行い、本人の希望に添ったケアを行っている。また、意思確認が出来ない場合は、本人により良い支援をカンファレンスにて話し合い、実施している	○	センター方式がもっと活用できるようにしたい。また、随時、希望は聞いているが、もっとケアプランに反映できるようにしていきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族の方にセンター方式の用紙を渡し、記入をお願いしたり、難しい場合には面会時などに聞きながら、情報収集している。また、本人にも色々聞いたりして、全員が周知するよう話をしたりしている	○	家族がいない方はわからない点も多い。これまでのサービス利用の経過については、担当のケアマネに聞くなどしてより多くの情報を集めるようにしたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護や処遇はチームで行うが、居室担当者を決めており、その人が中心となって日々の生活の把握に努めている。また、カンファレンスを通して全員が周知するようにしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランはサービス担当者会議を開いて作成している。居室担当者と話をしたり、家族に相談するなどして、よりよいプラン作成を心がけている	○	家族によっては、中々協力が難しいところもある。医師とは往診時などで状況を聞いたりしているが、もっと連絡を取ってほしい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身状況などに大きな変化があった場合は、プランの見直しを行っている。またプランは3ヶ月に1度見直しを行い、プランの達成状況は毎月のモニタリングにて確認している。家族からの希望や要望があれば、その都度対応している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や個人記録にて、日々の様子や変わったことを記録している。また、チームのノートがあり、特に注意する点はそこで申し送りしている。	○	夜間帯の記録がパターン化しているため、もっと詳しく具体的な内容を残すようにしたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	隣接のデイサービスでの行事には本人の希望があれば、見に行ったりしている。家族の希望があれば随時対応している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要時には協力をお願いすることもあるが、日常では行っていない	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望がないため、実施していない	○	他のサービス利用については、利用者が知らないことも多いので情報提供をしたりし、希望があれば随時対応できるようにしたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	希望がないため、実施していない	○	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院があり、週に一度は往診していただいたり、かかりつけ医からの情報提供を行ってもらったりして、支援している。また、必要時には提携病院以外の病院にも受診し、本人や家族が安心して生活できるように支援している		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	木村クリニック(提携病院)が隣接にあり、協力してもらっている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携病院の看護職員に相談したりし、医療活用の支援を行っている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係者、家族と情報交換や相談に努めている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	定期的に医療機関に受診し、医師、本人、家族と話し合い方針を共有している		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の利用者に対し、かかりつけの医師と話し合い、今後の変化について検討、準備を行っている		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移り住む際、本人に関わるケアをサマリー等で情報交換したり、機会があれば職員が顔を見に行くなどして支援を続けている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人一人に合った言葉かけや対応を心がけている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	耳の遠い方には筆談し、本人の意思を確認している。行事や親睦会等も本人の意思を確認している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お手伝いしたい方には手伝っていただき、TVが好きな方には自由に見ていただき、一人一人のペースで過ごしていただいている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月に1回程度、美容師さんが来所して個別の希望に合わせて、カットや髪染めなどしている。その他の美容院については希望があれば対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人に好きな物、食べたい物を聞き、できるだけ希望に添ったメニューにしている。野菜の皮むき、食器拭きなどできることは一緒に行っている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	水分補給時、個々の好みに合わせて飲み物を用意している(おやつ時も同様)たばこはライターは職員管理(火災防止のため)だが、本人の要求に応じている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、一人一人の排泄パターンを把握できる様努めている。必要な方には定期的に声かけ誘導している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の勤務体制により、午後1時から4時の間となっているが、1人1人の入浴希望に合わせ(毎日～3日に1回)入浴が嫌いな方でも適切な言葉かけで気持ちよく入浴していただいている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の仮眠の時間を考慮して眠れない時には職員が付き添い話を聞いたりしている。眠前薬については、その都度医師と相談している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花が好きな利用者には、花のお世話をお願いし、女性の利用者には台所仕事や針仕事をお願いしている。他に、日めくりカレンダーやカーテンの開け閉め、拭き掃除など役割ができています	○	男性利用者に毎朝自分で髭剃りが出来るようになる事を支援したい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の能力に合わせて、買い物の際の支払いを行って貰っている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に行きたい方には、一緒に出かけ、スーパーに買い物や美容室などの外出の支援も行っている	○	外出支援が同じ人に偏っている傾向にあるので、できるだけ皆に外出支援(順番で)を行いたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度のレクレーションで出来るだけ遠出の計画を立て、実施し、利用者へ外出支援を行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の支援は利用者の希望に応じて行っている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時にはフロアや居室等を自由に使っている。また、面会時間を設けているが臨機応変して対応している		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが、介護保険法指定基準等の正確な理解は不十分に思える	○	定期的に勉強会等を開き、理解を深めたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯以外は玄関の施錠は行っていない		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に1人以上はフロアを見守っており、利用者の行動の把握に努めている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具は針の紛失が続いたため、職員が預かり、見守りのものと使用していただいている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行が困難な利用者には職員が補助を行っている。火元となるものは職員が所在を随時把握している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当方法は各自取り組んでおり、統一した方法で援助している		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行っており、避難経路の確保のために整理整頓を常に心がけている。各利用者がどのような方法で避難するか把握している	○	地域と合同で消防訓練などを行うことにより、地域同士で災害対策に努めたい
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	病状、体調の変化に応じ家族へ連絡し、今後起こりうる活動レベルの変化、それによる支援方法を提示し、利用者のニーズを明確にし、それを目標として職員がカンファレンス等行っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	温度板や申し送りノート、記録などに各スタッフが目を通し、日々の生活の中で表情、しぐさ、言動を見ることにより活動レベルを把握し、利用者を取り巻く生活環境、心理的背景を考察した上で、変調があれば職員同士にて相談、ミーティングを行い、適切な対応をしている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服に関して不明な点があれば職員同士で相談、確認しあうことができている。各自の内服の支援は誤嚥等に注意し、状況に応じ統一した援助ができている	○	記録として服薬の支援方法は残し、徹底周知しているが、個別に記録、援助方法が整理されておらず、確認をする際に時間を要する
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	各職員が利用者の日々の弁の形状、排便のリズムを把握し、記録、周知している。予防として定期的な飲水、体操などを行っている。便秘により生じるリスクを職員が理解し、援助している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを実施するよう促し、ニーズに応じた方法を用いて援助している。異常があった場合は家族に連絡し、歯科受診が可能である。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が安定しない利用者には栄養指導を受け、十分な栄養が摂取できるようにしている。1日約200mlの飲水を5回以上行っている	○	栄養は摂取できているもののバランス良く、安定して摂取できるよう今後も心がけていきたい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事前、外食後にはイソジンガーゲルを使ってのうがい手洗いをしている。また、包丁やまな板、コップ等は週2回以上ハイターを使用し消毒している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は外部委託し、新鮮なものを提供できるよう配慮している。また週末は3日分の食材を購入し、必要以上のものを買わないよう心がけている	○	使い残しが時々あるため、一度で使い切るか、処分するようにし、鮮度には注意していきたい
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは利用者と一緒にいる園芸の花があり、四季折々の花が咲いている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビが離れた場所にあるため、見る利用者と見ない利用者の住み分けができています。光などはその都度カーテンなどで調節している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	つくりが個室となっているため、1人の空間は問題なく思う。一緒に過ごせる空間もソファやベンチが用意されている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持ち物をチェックし、安全なものは持込を制限していない。また、使い慣れた馴染みの家具を持ってきて頂けるよう家族に伝えている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の際にはほぼ毎日各居室、フロアの換気を行っている。また、過ごしやすいう、利用者の意見、体調などを配慮し、温度調節を行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子を使用している利用者が多いため、一部通りにくい場所がある	○	通りにくい場所は職員がサポートしている
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室等の場所で混乱する利用者には本人が読みやすい大きさに所在が書いてある		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	園芸が好きな利用者は花に水をくれたり、畑の手入れを行ったりしている。また、ベンチを配置してある	○	利用者が外に出る機会をもっと積極的にもうけていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ISOを取得し、良品質のサービスを提供する”長寿館ブランド”の構築を目指し、職員一同力を入れて取り組んでいます